

平安時代を考える

日本社会に「霊地」という言葉が成立したのは、十一世紀、いわゆる平安時代のことであった。なぜ神仏が常に存在する場である「霊地」は、生まれてきたのだろうか。人々が「霊地」を生み、そこで絶えず神仏と関わることを希求した背景には、当時の特殊な社会構造が関わっていた可能性が高い。それゆえに、当該期に特徴的に展開した事象を中心に、平安時代の社会的特徴について考えてみたい。

●主催

奈良女子大学古代学・聖地学研究センター

●開催日時

二〇二四年十二月十五日（日）
午後一時～四時（予定）

●開催場所

奈良女子大学S棟S224教室

●申込不要、参加費無料

●報告者

長田 明日華（奈良女子大学）

「君臣と共感 ―九世紀の詩文の世界―」

西村 さとみ（奈良女子大学）

「語り詠う神仏」

小菅 真奈（奈良女子大学）

「色彩表現にみる神と人」

●司会 村上 麻佑子（奈良女子大学）

●コメンテーター 斉藤 恵美（奈良女子大学）